



114
A4661



漢成每

上臨

有子

下

如

之

電

安

平

信

上

松

今下舞中五年

仙那

上程路

松山安氏

十

伯音大德主法

可子

身之可保

指法乃國之福

之師高知足

之師高知足

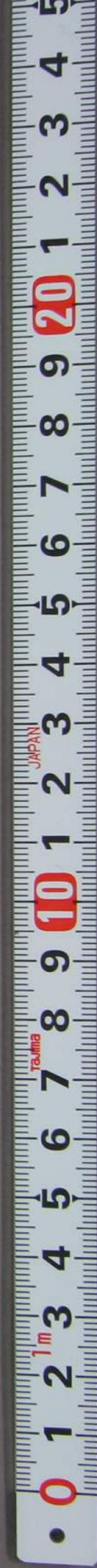
或一二產

之師高知足

可也一

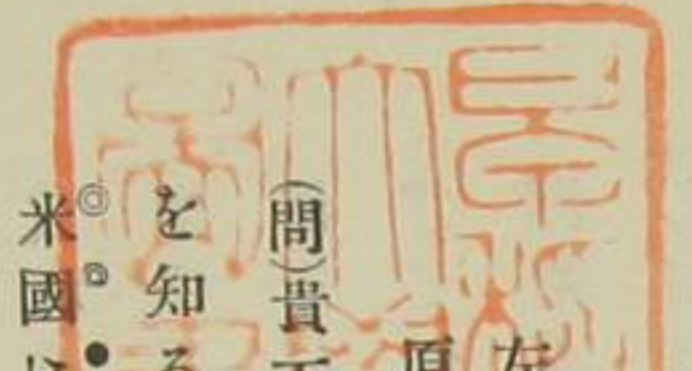
可也一

第一 日本工業銀行ニ付テノ問答
第二 鐵道國有論利害



(1) 日本工業銀行に付ての問答

左の談話は先月中或る二三銀行家の質問に對し工業銀行の事に付き米國に談判の
原因と債券に對す利子の操縦方とを説明したるものに付御覽被下度候



問 貴下及び金子堅太郎氏の主唱に係る日本工業銀行の組織は新聞紙上等にて其の大體
を知るを得たり然るに貴下等が此の銀行の主腦たる債券募集の事を一番資本の少ない
米國に向つて談判せられたるは世人が第一に疑ふ所なり

次に此の銀行活動の上に於て永久に利害を及ぼすものは利息なり然るに吾國の利率は
東洋の趨勢上四五年の後に於ては非常の低落を見るべきは識者の已に唱道する所なり
果して然りとすれば貴下等の計畫の如く此工業銀行をして假りに五朱利付の返済三十
年期限の債券を發行せしめたるときは東洋一般の利率が若し三朱四朱に低落するも此
の銀行のみは三十年間依然五朱の不幸中に營業せざる可からず此れ世人が第二に疑を
存する所なり此二點に對しては貴下は如何なる御考を有せるか

答 如何にも尤なる質問なり然るに吾輩が此の第一の答をするに付ては忽ちにして經濟
上以外の慷慨に驅られて如何にも残念如何にも心外といふ情けない了簡が湧出して自

から禁ずる能はざるに至るのである、先づ金を外國に借るには何處に借らうかと云ふとを考へて見玉へ必ず借り慣れた處に借るといふことが一番に其の思想に浮ぶのである其の借り慣れた處は英吉利とか佛蘭西とか獨逸とかである、是等ならば吾が日本の信用の程度も取引の方法も已に承知して居るから咄しが早く付くので有る然るに十年前の日本なら此れ等の借りなれた處に借りても宜いが今日の日本としては首が斬れても此等の國に借られぬのであるナセならば此れまで歐羅巴の諸國が吾輩等が諸君と共に造次頓沛にも忘却し難い故郷として愛着して居る此の東洋區の町内亞細亞町の戸毎に借し付けた金の取引法はドウです、實に經濟上の道理に有間敷様々の條件を附け丁度高利貸が貧乏者の足元を見て意地目る様な無理非道などをして終に彼れ等が今日の如き東洋の權力競争の足溜りを拵へたでは有ませぬか元來國が借る金には其國相當の名譽と信用が根底となるものであるから吾國が今日亞細亞の強大國たる支那を立ち投げに投げて世界的の名譽を擔ふて居るのに矢張り是迄の支那や朝鮮と同じ様に心得て彼れ歐洲諸國が待遇するから溜らない現に一昨年松方内閣がサミュエルサミュエルを媒妁として英國ロスチャールドに於て募集したる戰勝國大日本の金箔附の公債はドウです吾

輩は其時の當局者が談判の模様などを聞まずと實に憤慨胸に迫りて涙が出ます、終に云ふに云はれない情けない有様に其結果を告げたでは有りませぬか是では戦争と云ふ棒を持つてチャン／＼坊主の天窓を殴ると同時に經濟と云ふ泥脚を以て赤鬚に顔を踏まれたのである吾輩は其時又深く考へました折角日本が義烈百世に朽ちざる舉國一致の決心を振ひ幾多の血と骨とを以て得たる名譽を擔ひながら實にドデ馬が破れ橋を渡る様な危険な政治の遣り方をする以上はドウか餘り政府の公債杯を不完全な政府の手で外國杯に持ち出させず國家經濟の遣り繰り方を以て經濟上の威儀と信用とを保つ工夫を仕たい者と考へまして友人金子堅太郎氏に謀りましたスルト金子氏は夫れこそ君が多年の持論たる日本工業銀行を仕組み世界的經濟疏通の機關を開き國家對外的經濟操縦の獨立機關を司らしめ總て債券の遺繰りを以て政府公債の信用を維持し、翻つて一方には國家必要の生産事業に向つて薄利優澤の資本を注入し此の結果を國家生産の上にて著しく發達せしむる時は此の債券の世界市場に於ける信用は明かに優勢を占むる様になるから此の銀行を設立するには此の時を措て外に好き時期ハ無いと云ひ升から吾輩は多年抱持する東洋經濟論を實行する決心を取りたので有ます然るに此の經濟論は

吾輩が數年前より東洋の半開國が生存する生産的外資活動の有様に注目して組織したる即ち田舎者が東洋の田舎國の勝手になる様に斗り考へ立てた方法ですから此の大事なる進歩國の吾國民などに輕忽に紹介される事でないと思ひまして何れの國にか此の下地相談を仕たいと思ひ研究に研究を重ね終に亞米利加に往つて相談を仕て見るとに極めましたサテ如何なる譯で歐洲諸國の金のある國を除き金の少なき米國に極めたかと云ふと歐洲諸國は前に云ふ如く東洋半開國の困難に付け込むを唯一無二の政略として居りますから云ふに云はれぬ甘い味を占める癖が付て居ります故に相談すれば始めには好きな言を云ふて引受け仕舞には摺つて揉んで臭い尻を嘗めさせ國家の權力を窘辱する様な事になります之れに反して亞米利加と云ふ國は元來錢の少ない國であるから外國に金を貸した歴史がない近來布哇と玖馬に少し斗り出した斗りで資本の力を以て他邦の國權を侵した例がない嘗に他を侵さないのみならずモンロー大統領以來モンロー主義と云ふ主義を世界に公布し若し他の歐羅巴の國が是れ等の方法を以て亞米利加の聯邦を侵す時は直に自分が相手になつて防で遣ると云ふ義侠な國である故に決て經濟上の道理以外の惡習に染んで居ない國であるから譬へ慾張る迄も吾國權を辱むる

様な無禮は云はぬのである故に此の自由國民の俠氣をオダテ上げて何ぞか世話をさするに限るのである其の上米國の紐育市にはモীগンと云ふ世界の金貸し問屋がある此の問屋の營業は世界の政府の經濟を整理することを依頼されて公債や國債の遣り繰りを引受けて世話をするのである現に彼のクリヴランドが大統領たる時政府が關稅の操縦を誤り貨幣の流出が甚しき爲め政府紙幣の信用を國民に失ひ非常に紙幣の引換を受け大困難に陥りたる時政府は此モীগンに其の整理方を依頼した其時モীগンは六ヶ月を期して之れを引受け直ちに英國の支店と交渉し資金を輸入し其の己れが融通配下の紐育州加利浦尼洲等の各銀行をして紙幣を吸收せしめ貸出しには悉く金貨を以てし立所に七千六百万弗の政府紙幣を集收し之れを紐育の己れが庫に入れビチンと鍵を卸して直に倫敦に遊びに行つて仕舞をした故に米國の人民は俄然斯る變動を受けたから取引上非常の不自由を起し四ヶ月半にして金紙幣の差二百餘万弗を得て開放し其の内政府經濟の整理をさして其年の暮には見事に復す事が出来た夫のみならず秘露政府の如き白耳義の如き一時皆モীগンが手をかりて政府財政の整理をしたとを聞て居りましたから先づ相談するは米國にてモীগンと極め將來米國が東洋に於ける

貿易上の關係を取調べたる書類と此の工業銀行案とを携へ日本を飛び出したのです處が米國に於て色々な困難な談判末の彼が資本の融通先なる歐洲の和蘭白耳義瑞西等の勤儉貯蓄で積た薄利の金をモ、ガンの信用と債券の効用とに依りて呼び之れを米國と云ふ惡條件なき箇に掛けて日本に融通し之れを以て將來日米兩國が東洋權力の上に於て得んと欲する貿易上の關係を經濟共通の爲めに依て得よと云ふとに極めて來たので有りませす是れが第一の質問に對する答ですが吾輩は實に殘念です廣い世界に是迄借りた事もない貸した事もない米國の外此等の相談を爲るとが出来ない様に日本が經濟上の窘辱を受けて居るかと思へば如何に我慢をしても憤恨骨に徹して耐へられませぬから是非共今日を好期として早く日本に世界同等の威信を以て資本を共通し得る機關を設備したいと思つて勞苦を惜しまない譯です

是から第二の質問に對して答へませふ第二の質問にかゝる利息と云ふ點に就ては誠に六ヶ數き掛ケ引を要する事だが吾輩の考にては最初丈けは最下四朱位は出さなくては成るまい高くて五朱を出る事はないと思ふ此の四朱となるも五朱になるも操縦の仕様所謂人氣の取り様一ツである此等の點は世界的經濟上の晴れ藝だが今日の日本にて

は非常に面白き時と思ふ然るに今も諸君の質問が此れ等驅け引上の事に對し教へて遣ふと云ふ主意の質問なら吾輩は非常に喜びますが大体世界的金融の仕方を省察せず金の借貸の道理を考へず人の計畫して居る事に無暗に疑斗りを掛けらるるは實に困るでは有ませぬか今も諸君の云はるゝは彼の契約的貸借證文にて金を借るかの様な解釋で初めに五朱に極めたら三十年間五朱の不幸中に營業して外が二朱となりても三朱になりても此の年限中は損をして行かぬはならぬと云ふ様な質問でありて頗と契約證文も債券も一所クタにして同物的の見解をせらるゝは諸君を銀行家として日本の經濟界の爲めに實に浩嘆に耐へないのである吾輩の唱ふる世界的金融といふは證文を張りて或る一人の金持に契約的借金をすると云ふとではない銀行の判を押した手形の賣物即ち債券と云ふ物を澤山拵へて誰にでも高く買ふ人に賣るのである故に買ふ人も又た別の人に賣る其の賣買に對して相場が出来来る故に此の賣買物は誰れでも買上げる事が出来ませすから外國の取引所にかゝりて定期で買ふても宜ければ直きで買ふても宜い其の時の相場の上の直段に掛引さへ確かなれば丁度世人が自分の鐵道會社の社債券や株券を人に命じて買占めさするやうに何時にても買はれるのである日本の人民が勉強を

して此等の外資を以て眞に儲かるとを成し金さへ出来れば三十年の返済期限の債券を
 來月からでも倫敦の仲買に命じて買上げるとが出来るやうに初めから債券即ち賣買物
 にして出して有るのである丁度米國のペンシルベニア鐵道が今の如く持主が變更
 せぬ前三分半の九十と云ふ社債券を賣り出して翌年會社を整理して三分の九十二と云
 ふ債券を倫敦に賣り出して其の金で前年の分を買上げたやうなもので其の債券を振り
 出す銀行が眞に整理して世界の經濟界に堂々と浮び出すとになれば今年五朱の利で發
 行した債券を翌年更に四朱で或る方面に賣り出して五朱の方を買ふて仕舞ふと出來
 ます此等の事は吾輩が今更事新しく喋々せないでも諸君が毎日自分の業務の上に手も
 離さず遣りて居らるゝ事である現に未だ年限も來らぬ政府の公債を額面よりか安い直
 段でドシ、買込んで他の一方には外國に安い利付の公債を直段高く賣る計畫を仕て
 居るでは有りませぬか故にドウか日本の人は夫れ等の事に憂慮せず早く三十年來鐵國
 的經濟の迷夢を醒し世界の經濟界から此の如く馬鹿にされて此の如く苦んで居るとい
 ふとを深く殘念と思ひモ一好加減に思慮を定め下らない裏店根性を捨て、舉國一致の
 精神を極め世界の經濟界に押出し舊來の鎖國的經濟法に大改革をしたが好いと思ひま

す又た諸君の如き銀行家にしても此等世界的經濟の疏通法が出来ねば薄氷を踏む様な
 思ひで營業して行かねばならぬナゼなれば抵當物の價格が不確實である即ち下らない
 事の爲めに直に經濟界の恐慌を來し株券價格に亂高下が來る其の度毎に閉店とか破産
 とか其のマゴ付く體裁は實に見て居られぬ程氣の毒である今更假りに政府を相談役と
 して立つて居る日本工業銀行が貸し込んだ會社の株券と獨りでにウカ、營業して居
 る會社の株券とを抵當に取りて居たらば諸君は何れが安心ですか其の諸君が安心して
 金融して遣らるゝ會社は必ず隆盛になり不安心にして容易に融通をして遣らぬ會社は
 屹度衰頽に屬する故に此等の會社も此の工業銀行の要求する言を聞いて整理に整理を
 加へ表向き工業銀行が信用して金を貸す様になるから國家の生産事業が段々進歩して
 行くよふになりますマダ色々御咄し仕たいともあります前二様の質問に向つての御
 答は大略はこんなものですから先づ此れで御免を蒙ります

(2) 鐵道國有論の利害

左の談話は府下二三の新聞社員が小生の病氣中に來訪した節の筆記にして鐵道國
 有の利害を述べましたものですから御一覽被下度候

吾輩は先月下旬より圖ざらる病魔に取付かれ日々四十度内外の劇熱に冒され殆んど十
數日間ば世事を忘却したる姿となりたり然れども唯々寤寐寢食の間も心頭を離れざる
ものは吾國今日の經濟上のとなり如何なる譯で吾輩が經濟上の前途をのみ斯く剴切に
憂憤するかと云へば日本には昔時より深く腐り込んで居る痼疾の病根が經濟と云ふ肝要
な臟附にのみ染渡がて少し許り經濟界が勞働すると直に呼吸が迫り脈搏が増し邪熱を
發し終には目も耳も眩聾して自分の體に感覺する眞の利害さへ分らなくなりて仕舞ひ
甚だしきに至りては神經の衰弱よりビクビク物事に怖氣を生じ終には毎年吹く大風位
の物に迄も目色を易へて氣遣ひ出し爲に一國經濟の治亂を媒介する様な譯に陥りて居
る即ち吾輩が前來より懇々説明する鎖國的經濟徳川時代よりの遺物、半開國の痼疾病、吾
國に腐り込んだ惡病根であります斯る恐ろしき病根がある處に戦後の膨脹と云ふ大劇
變に出會ひ引續き新條約實施と云ふ容易ならぬ大騒動に乗り込まねばならぬ責任を有
する吾經濟界でありながら少しの用意も覺悟も付かず唯々まご／＼してヤレ事業が崩
れたヤレ事業が起らぬヤレ金利が高いヤレ融通が立たぬヤレ救濟せねばならぬと正に
一二年間と云ふものはワイ／＼／＼と筋も道理もないことをワメキ廻り幾多の國

民を狂亂迷倒せしめましたが吾輩の見るどろにては一も今日までの世論に日本の病根
を醫して當り前の經濟的資格に復し世界街頭に店舗を構へて宇内の各國に對して輸贏
を争ふの日本たらしむることの出來やうと思ふのは無いと信じます果して此れが無い
とすれば我が日本は、經濟的窘迫の爲め、逆比例に、退歩窮乏して東洋列國の中に齊しく苦
んで、其の生活のみに、勞れて、仕舞はねばなりませぬから吾輩は今日百憂を措いて其全腦
を、絞り、我が帝國、經濟界の改良にのみ傾注して、寢食を忘るゝ次第であります
既に、前に、云ふ如く、日本は病氣の爲めに、精神が錯亂して居りますから其の議論も方法も
言語道斷錯亂したること計りで、政府の遣り口も銀行の遣り口も實業家の遣り口も自分の
勝手な事計りに道理を付け詰まり其の議論は一人一己の門頭に感ずる利害にのみ神
經を支配されて居ると斷言してよいと思ひます國家の前途を謀るとか社會の將來を救
ふとか云ふことは言論上の看板引札に過ぎずして、其の自分勝手が事實上第一に置かれ
て居る故に其の論する所は總て飛車を桂馬に飛んだやうな事計りて言はれぬこと行は
れぬ事でも何でも構ひませぬ先づ第一に政府は國費の補缺に地租を措て問はず他に雜
税源を求むると云ひませぬ吾輩は何の事か分りませぬ國家の政費を負擔するものは四税

云ふて第一に地稅、第二に商稅、第三に工稅、第四に關稅といふて第一番に遣れの付かぬものはラ、即ち土地といふものにて此れは恰も貨幣制度の本位を定むる金の如きものにて其の他は恰も補助貨幣といふべき補助稅です課稅の影響を對外貿易に及ぼす事の一番輕き地租に増さずして直接に對外貿易の上に影響を及す商工の雜稅中に稅源を求め増減極りなき生産貿易の泡沫夢幻の統計に浮動する商工の上に稅源を置いて強大なる一國の財政を計畫するに云ふに至りては他に如何なる明理由、明道理がありても決して經濟上の道理が許しませぬ否な經濟上の道理で行はれぬやうになりませぬなれば活動稅源でありて固定稅源でありませぬから徵稅の基礎が年々歳々に間違つて來ますです所謂當てにならぬ稅源です故に吾輩は經濟上の道理から賛成しませぬ第二に銀行家です此の銀行家の自分勝手にして慾の皮の引ッ張り加減と云ふものは實に數の知れなくらくらゐにて常平生己れか營業區域なる日本が世界の經濟界に對し如何なる位置に居るかと云ふことは少しも考へないで世間が事業熱に浮かさるれば自分も共に浮かれ出して實に咄しにもならない泡沫會社の權利株や一圓株に先を争ふて貸出を競争し少し金融が悪くなれば先を争ふて貸出しを停止し一も警戒二も警戒といふて騒ぎ廻ると

云ふは全体何といふ情ない有様でせう前の大藏大臣井上さんはッ云ふてゐました昨今大阪や東京の銀行家が寄つて私が經濟界を打ち殺すと云ひますドウモ私が性質として急に華美な仕事が出来ぬから世間が困りはしませうが私が殺すと云はれては黙つて居られませぬと云ひますから吾輩は夫れは御迷惑です自分等が慾張一方の心から毒な物許り食ふて之を人にも薦め嘔吐を吐くやら血を吐くやらするやうになりて閣下に人殺の罪名を負はするといふは無理です唯々閣下は之れを助くる掛りの御醫者様ですから早く消毒の藥を飲ませて下さるが御役目です併し此の施藥御考案の時間が餘り長いと此の病人が死んで仕舞ますから其時は御手ばかりといふ責は閣下に有りますから此れは私の申上る日本の經濟法の御咄でなく唯々救濟策丈けの事ですが救ふ事さへ仕て下されば閣下は人殺の罪人では決してないですといふた事がありませぬ即ち當時の銀行家といふものは自分が融通機關といふ經濟上の火の見臺に上りて居ながら下界の火事場泥棒と一様に騒ぎ廻りて非常な屋根崩れやなどの下に敷かれるやうになりてから人殺の罪名をお醫者様に吹き掛けるやうな有様です其銀行自身が確信した眞の有利有益の事業にさへ融通されぬ位の腕前で居ながら警戒中だから貸せませぬ勝手に御潰れな

さいとびふてドンナ花客でも勿飛ばして仕舞ます元來警戒といふ言葉は經濟上貸さぬ時許かに用ふる言葉ではありませぬ借る時にも貸す時にも不斷常住に忘却するとの出來ない大事の金言です夫れに何ぞや平常は思慮も分別も無く遣り散して置いて困るやうになりて警戒といふ大聲を揚げて世人を驚かせ加ふるに色々の熱を吹き公債を償還せぬは残酷だ鐵道を買上げぬは非道だと人類の一番忌むべき残酷だ非道だといふ様な言葉を連ねて當局者を責むるは吾輩之れを精神錯亂の一結果と思ひます第三が實業家で此の人の云ふことも随分亂暴な事があります吾輩は其の事柄は錯亂的身勝手と思ひます其の事を唱ふる人物は強く咎めさせぬなせなれば此の人の方は今は紳士紳商でせうが其以前は此の錯亂主義身勝手論の山が當りて此の紳商や紳士に成つたのですから詰まり事業熱や膨脹浮れは此の紳士紳商を産んだ母ですから此の後とても騒ぐまい浮れまいといふ請合は付ませぬ併し詰り自分さへ好ければ外に言草はないといふ極々淡泊な人達故致方は有りませぬ唯々其の身勝手論の爲めに國家經濟の基礎と秩序とを合せて攪亂するやうになるに至ては黙つて居られませぬ先づ昨今尤も勢力を占めて得るやうに見えますのは鐵道國有論です

扱て此の鐵道國有といふ問題に付ては吾輩は昨年來頻りに説明して置た事がありますが近頃に至り大分咄しが進んで來た様に見えますのは國家の爲め結構な事でありま併し吾輩の此の喜ぶのは國民が鐵道杯は國の所有にして置たい日本は其位の姿にして置たいといふ品位上の思想に傾動して來たのを喜ぶので吾輩も國家の爲め非常に嬉しき譯です去ながら其の鐵道を國有に仕様といふ手段方法として唱へらるゝ旨趣といふものに至りては實に驚嘆に耐へない事許りで所謂錯亂的議論と云はざるを得ざる次第である先づ第一に鐵道を國有とするに他國の例を調らべて此れに日本を箝め當て何國が國有にして居るから日本もせねばならぬとか何政府が此の方針を取つて居るから日本もソレせねばならぬとか他國の例で日本を推し倒すのは大間違の咄である元來運輸機關と云ふものは其の隣國の關係と其國の形り容ちによりて利害も設計も異なるもの故其の國の位置山川海岸の形勢が丸で異なつて居る日本の利害に持つて來て他の事許り例にして無理に箝め込まんとするは丁度隣の肥満した爺父がコンナ衣物を着て居て甚だ格構が好いから此の方の瘦せ男の息子にも其衣物を着せたが好いと云ふと一般でその格好の好くないとは論を待たない事である第二は軍事上の關係を説き軍人など

を教唆して國有にしたが好いと云ふ説がある此れ又大間違の説である元來軍人といふ者は國家の獨立を嚴正に維持する至嚴至正の役人であつて上大将より下輜重輪卒に至る迄其の全腦を満たされて居るものは勝敗と云ふ事の外ないので此勝敗の爲めに常平生命が賭して有る故に毎日鎧を着て刀を差し一心に敵國の模様を睨み廻して有事の時を待ち大元帥陛下が御一言の御命令によりて吹き出す進軍喇叭の音で三軍貔貅の命は塵の風に飛ぶやうになるのである故に此種の人は穢らはしき國家の味噌鹽奉行の懐合ひやシミツタレな經濟家の十露盤咄しで其敵愾心を鎔解することは出来ぬのである夫が鎔解する様では軍人では有りませぬ箇様の精神で凝り固りて居る人故に國の財政や經濟の事には研究をする念慮がない唯々名籌奇策として肝膽を凝らすのは敵を破り國を守るの一事である錢や金の工夫は第二に置ねば名籌も奇策も出るものでない箇様な單純な人に向て何國は軍事上の爲め鐵道を買上た何國の政府は軍事上の爲め鐵道を布設したと敵國の進歩許りを摘擧して教唆する時は一も二もなく賛成して進んで敵國に穩密杯を入れて取調ふるに相違ない夫れは外國にては隨分軍事上の爲に鐵道を買上げた國もありますが其國は國家の位置と形勢が違ひます彼の獨逸や佛蘭西といふ様

な國は大陸の上に建設せられた國家で四方強大なる敵國に隣接し其國內の鐵道線路は丁度密柑を輪切にしたやうに其國の首府より八方に分岐して四方の敵國の境に馳せ出たる交通線路は幾筋有るやら分りませぬ其の上其鐵道は自國の内にある鐵道を他の隣り國の國民が布設したる者もあれば隣り國の鐵道を己の國民より布設した者もある故に一朝其の國と戦端を開く時には所謂戰時に國境なしでは是から先は己れの國だなど書た標杭などを立て、置てもチットモ構ひませぬ舟でも車でも鐵道でも手の及ぶ丈はドシ、利用して來ますから其運輸の主權上國有にして置かなければ容易ならざる障害を受けることがあるから成るべく工夫をして色々の方法と遣り繰りをして自國の有に買上げた事もありません然るに吾日本は之と反對で有て鴨の浮たやうな島國である隣國との關係は船舶の上でなければ接衝するとは出来ませぬソ、して極巾の狭い國ですから吾國の鐵道は一朝事あるの時は悉く軍事鐵道と云ふても宜い故に其鐵道を布設する始に軍事上の設計と能く照合して線路を許可して置けば有事の時一命令のもとに全部徵發するを得る故寸毫の不自由もない故に吾輩が將來軍人に鐵道のとにて希望する處は布設の場所と布設の仕方に付て今少し八ヶ間敷云ふて貰ひたいのである其れが軍

人の職分である、と信じ、まず第三は此鐵道を買上げる時です國家たるものが簡様な大事業を執行する時は大變に六ヶ敷ものにて此には色々緻密な關係も有ますが先づ單純に經濟上の關係を述べれば政府に充分財政の餘裕があつて民間經濟が非常に逼迫した時杯が尤も適當の時と思ひます此れとても其の民間經濟の程度を計らずして一時に買収する時は忽ちにして通貨膨脹の結果容易ならざる不測の恐慌を來す事になりますから譬へ政府に餘裕が有ても鐵道公債とか年賦買上げとか種々の方法を以てせねば着手することが出來ぬので何れの國でも永年此れ等の事に苦んで居るので有ます然るに今日本の國はドンナ時かと云へば政府の財政も民間の經濟も極度の紊亂を極めて政府は公債のみを抱いて財政の信用を落し民間は通貨膨脹購買力増進の間に資本缺乏の苦境に陥り詰まり此の國家は經濟上の奇象に遭遇して資本を吸收するとも出來ねば膨脹せしむるとも出來ず眞に政府も國民も困り果た時である簡様な時に例を他國に求めたり軍事に關係を引たりして鐵道を買上げんと企つるは風雨の時に屋根や壁の修繕をなさずして疊換へをする様なものである何れにしても國家的精神の錯亂した人でなければ簡様な議論はされぬのである唯々吾輩が鐵道買收論に稍々賛成を表するは國家の歳入

論より來りたる説である此の歳入論なるものは今日日本の國民が尤も剴切に尤も深重に研究すべき事にして之れを政府にのみ放任して氣兼ね苦勞許りの中に怖々新稅源を求めさせて置くのは不都合である政府が歳入を地稅にも訴へ得ず酒とか砂糖とかの下戸や上戸の咽を締るとまでに工夫したのは言ふに言はれぬ止み難き事情があるからである故に眞に國家を憂ふる國民は自分勝手でなく尤も正しき公平な心を以て國家の爲に歳入増殖の方法を討究し進んで政府に勸告するの公義を有するのである今や日本の國で鐵道といふものが官有になり政府で營業をしたらば今の様な不完全なりでも吾輩の取調べた豫算では一千七百萬圓位の利益を收入するまでは進めらるゝと思ふ果して然らば日本の國に外に何が此の如き新財源固定歳入の確實なる者があると思ひますか吾輩は經濟上の考へより鐵道を國有にするのは此外に理由の有るを見出さぬのである然るに之を買上げて國有にする方法と買上げる錢はどうするかと云へば中々六ヶ敷い一時に一千七百萬圓以外の歳入を得んといふ單純な目的を達せんとすれば此鐵道を抵當にでもして外國から金でもからねばならぬ處が外國の人がコンナ鐵道を抵當に錢を貸しますか毎年々々三時間か五時間の風や雨が降れば直ぐに壞れて仕舞ひ五日も十日も不

通に、なる事、が、年、に、二、三、度、づ、ゝ、位、は、あ、る、で、は、有、せ、ぬ、か、其、の、上、橋、が、落、ち、土、堤、が、崩、れ、ヤ、レ、脱、線、し、た、衝、突、し、た、荷、物、が、失、せ、た、泥、棒、が、有、つ、た、倉、庫、に、付、け、火、が、有、つ、た、局、内、か、ら、罪、人、が、出、た、と、云、ふ、其、の、不、始、末、な、事、は、數、へ、盡、さ、れ、ぬ、程、あ、る、や、う、な、鐵、道、を、抵、當、に、外、資、を、入、れ、や、う、と、云、ふ、て、も、若、し、貸、す、奴、が、あ、れ、ば、必、ず、無、法、な、も、の、で、あ、る、故、に、貸、し、方、も、無、法、な、條、件、の、下、に、成、り、立、つ、の、で、あ、る、一、國、の、政、府、た、る、も、の、が、無、法、者、に、無、法、な、金、を、借、り、て、鐵、道、を、買、上、げ、や、う、と、云、ふ、の、は、道、理、か、ら、出、來、ぬ、と、で、不、道、理、か、ら、は、尙、ほ、爲、さ、れ、ぬ、と、で、あ、る、又、た、ソ、ン、ナ、無、法、な、金、を、借、り、て、買、上、げ、る、鐵、道、は、其、の、買、上、げ、方、法、も、必、ず、無、法、に、な、る、の、で、あ、る、斯、く、の、如、く、な、る、と、き、は、始、め、に、目、的、と、し、た、歲、入、論、も、め、ち、や、く、に、な、つ、て、却、て、取、り、返、し、の、付、か、ぬ、責、任、を、外、人、に、遺、す、に、過、ぎ、な、い、の、で、あ、る、故、に、吾、輩、は、昨、年、以、來、友、人、金、子、堅、太、郎、氏、と、御、咄、の、出、來、な、い、苦、心、を、し、て、日、本、工、業、銀、行、法、な、る、も、の、を、編、成、し、内、外、の、學、者、實、地、家、に、相、談、し、其、の、協、贊、を、經、て、時、の、政、府、に、提、供、し、現、今、尙、ほ、専、ら、其、の、遂、行、に、盡、瘁、し、て、居、り、ま、す、此、の、方、法、に、よ、れ、ば、外、資、輸、入、の、直、接、の、責、任、を、政、府、や、鐵、道、に、負、は、せ、ず、銀、行、其、の、者、が、法、人、と、し、て、第、一、に、義、務、者、と、な、り、其、の、他、は、總、て、間、接、の、責、任、則、ち、間、違、あ、る、と、き、の、要、慎、目、的、た、る、に、過、ぎ、な、い、と、し、て、安、全、に、外、資、を、入、れ、る、と、が、出、來、ま、す、ソ、コ、デ、其、の、資、本、を、以、て、國、家、有、用、有、益、な、る、鐵、道、採、に、貸、付、ま、す、此

の、場、合、に、は、其、の、債、務、鐵、道、會、社、に、要、求、し、て、有、効、な、線、路、と、な、し、則、ち、風、や、雨、位、に、て、容、易、に、崩、れ、ぬ、様、な、強、固、な、る、線、路、に、改、修、を、加、へ、し、め、た、る、上、之、れ、を、抵、當、に、し、て、資、金、を、貸、し、込、み、置、け、ば、若、し、抵、當、流、れ、に、此、鐵、道、が、成、つ、た、と、き、之、れ、を、政、府、に、引、受、け、さ、せ、た、處、で、軍、事、の、時、に、で、も、平、常、に、て、も、屹、度、鞏、固、に、歲、入、採、を、負、擔、す、る、鐵、道、と、漸、次、な、つ、て、行、く、の、で、あ、る、夫、の、み、な、ら、ず、日、本、は、此、機、關、銀、行、の、爲、め、云、ふ、可、か、ら、ざ、る、信、用、上、の、利、益、を、得、る、の、で、あ、る、政、府、公、債、の、信、用、は、此、の、銀、行、債、券、の、信、用、に、よ、り、て、高、め、ら、れ、鐵、道、の、信、用、は、此、の、銀、行、貸、込、み、の、有、無、に、よ、り、て、確、定、し、他、の、商、事、銀、行、融、通、上、の、信、用、を、圓、滑、に、し、金、融、上、利、率、の、信、用、を、平、準、に、し、始、め、て、國、家、生、産、事、業、進、歩、の、階、を、開、く、事、に、な、り、ま、す、故、に、鐵、道、買、收、な、る、問、題、は、國、民、と、し、て、は、國、の、品、位、上、賛、成、せ、ね、ば、な、ら、ぬ、問、題、で、す、け、れ、ど、も、今、日、の、議、論、の、如、く、各、々、自、分、勝、手、の、我、儘、許、り、駢、べ、立、て、ヤ、レ、民、間、が、資、本、缺、乏、だ、か、ら、國、有、に、せ、ね、ば、な、ら、ぬ、と、か、軍、事、上、必、要、だ、か、ら、買、上、げ、ね、ば、な、ら、ぬ、と、か、經、濟、救、濟、の、爲、め、に、官、有、に、せ、ね、ば、な、ら、ぬ、と、か、何、が、目、的、や、ら、何、が、手、段、や、ら、譯、が、分、ら、ぬ、な、つ、て、仕、舞、ふ、様、に、騒、ぐ、故、終、に、は、極、端、の、惡、口、男、の、爲、に、ナ、ニ、株、屋、が、苦、し、紛、れ、に、騒、言、を、云、ふ、の、だ、と、一、と、口、に、冷、や、か、さ、れ、て、仕、舞、ふ、の、で、あ、る、故、に、吾、輩、の、鐵、道、買、收、即、ち、國、有、論、の、目、的、は、歲、入、論、の、爲、め、で、あ、つ、て、手、段、は、鐵、道、改、修、方、法、は、工、業、銀、行、の、働、き、に、よ、る、の、で、あ、り

ます

以上述ぶるが如く政府や銀行家や實業家が各、自分の都合勝手に色々な理屈を付けて世論を攪亂し何れが本當の事やら分らぬ様に成つて居りますが皆一づゝは理屈が有りませすから中々見分けが六ヶ敷い故に眞に公平の心を以て日本の將來を憂慮し造次顛沛にも國家百年の安泰を希望する諸君は深く國家の爲に慎重して吾が日本國の眞相を看破して貰ひたい者である昔時十字軍のありし時ゼルザレムの野に東西より武裝した士が一人つゝ來ました處が丁度其の行會ふ所の路の眞中に軍に用ふる楯の板一枚立て、ある甲の士は立ち止つて其の楯を見て云ふには此楯の板は實に白いものだ丁度雪のやうだと云ふ所が同じくコチラの方に立止まつて居た乙の士は之を聞いて笑ひ出し馬鹿な奴だ此の楯板は墨の如く丁度漆で塗つたやふなのを見て雪のやうだと云ふ彼の武士は黑白を辨せぬ阿房だと云ふと甲の士が之れを聞いて非常に怒り一場の喧嘩を初めた處へ又た一人の丙武士が遣つて來て仲裁をした曰く兩人とも正當の議論である先づ互に兩方に入れ易りて楯の色を見るべしと云ふから其の通りにして見ると豈圖らんや其の楯は表裏両面白と黒とで拵えて有つたといふ咄がある日本ではコンナ議論を水掛論と

いひますが唐では楯論といふて薄思單見の議論を以て直ちに他人に誣ゆる者を戒むる喩へにしてあります詰まり今日の日本は丁度此の楯の様なもの、で表向きはえらくて内實は困却を極めて居るから能く其の眞相を看破して謹んで丙武士の位置に立ちて此の國家の表裏を識別し表向きの顔も汚さず内實の困難も助かるやうに意見を立ねばならぬと思ひます吾輩が十年の憂苦積んで茲に發し孳々として尙ほ苦勞を惜まず徒らに彼の寧武の愚を學んで止まない譯は實に吾が帝國の前途外交上貿易上今や俄かに明言し難き程の困難を見掛けて居りますから如何にもして此の東洋の波瀾澎湃の間に嚴立して國威の發揚を計りたいと思ひ色々の議論を君方にも御咄しする譯ですまだ種々考へて居るとも有りますが何分病中ですから又た全快の上はゆるゝ御目に掛るごにいたしませう

明治三十一年九月

杉山茂丸

脚合三十一

物出

六丁ノ事
 八ノ事
 九ノ事
 十ノ事
 十一ノ事
 十二ノ事
 十三ノ事
 十四ノ事
 十五ノ事
 十六ノ事
 十七ノ事
 十八ノ事
 十九ノ事
 二十ノ事
 二十一ノ事
 二十二ノ事
 二十三ノ事
 二十四ノ事
 二十五ノ事
 二十六ノ事
 二十七ノ事
 二十八ノ事
 二十九ノ事
 三十ノ事
 三十一ノ事
 三十二ノ事
 三十三ノ事
 三十四ノ事
 三十五ノ事
 三十六ノ事
 三十七ノ事
 三十八ノ事
 三十九ノ事
 四十ノ事
 四十一ノ事
 四十二ノ事
 四十三ノ事
 四十四ノ事
 四十五ノ事
 四十六ノ事
 四十七ノ事
 四十八ノ事
 四十九ノ事
 五十ノ事
 五十一ノ事
 五十二ノ事
 五十三ノ事
 五十四ノ事
 五十五ノ事
 五十六ノ事
 五十七ノ事
 五十八ノ事
 五十九ノ事
 六十ノ事
 六十一ノ事
 六十二ノ事
 六十三ノ事
 六十四ノ事
 六十五ノ事
 六十六ノ事
 六十七ノ事
 六十八ノ事
 六十九ノ事
 七十ノ事
 七十一ノ事
 七十二ノ事
 七十三ノ事
 七十四ノ事
 七十五ノ事
 七十六ノ事
 七十七ノ事
 七十八ノ事
 七十九ノ事
 八十ノ事
 八十一ノ事
 八十二ノ事
 八十三ノ事
 八十四ノ事
 八十五ノ事
 八十六ノ事
 八十七ノ事
 八十八ノ事
 八十九ノ事
 九十ノ事
 九十一ノ事
 九十二ノ事
 九十三ノ事
 九十四ノ事
 九十五ノ事
 九十六ノ事
 九十七ノ事
 九十八ノ事
 九十九ノ事
 百ノ事

